毎日新聞　第三種郵便物認可

県産丸太 中国で可能性

北信州森林組合報告書

曲がっていても需要 来年も輸出

北信州森林組合（中野市）は、県森林組合連合会（長野市）が今年始めた県産丸太の中国への輸出について、県産の丸太が流通している上海市などを9月に視察した結果を報告書にまとめた。日本では買い手が見つからないような曲がった丸太でも、中国では手作業で集成材に加工され、マンションの内装材などに使われていることを確認。同組合は、販路の一つとして「中国輸出は今後も可能性がある」としている。

北信州森林組合によると、県産の丸太は3～10月、直江津港（上越市）から貨物船で4回、スギやカラマツなど計約8千立方㍍を中国に輸出した。このうち中野、飯山地方6市町村が管内の北信州森林組合と栄村森林組合で輸出量の4割余を占める。年内にもう1便輸出を計画している。

視察は9月14～17日に行い、両森林組合職員ら計12人が参加。輸出された木材の流通状況を見た。

県産材の現在の輸出先となっている上海市近郊の太倉市にある木材を専門に扱う太倉港では、積まれた大量の丸太の中に北信地方産のものを確認。九州などの丸太が荷揚げされている上海港も見た。上海市の製材所では、九州産のスギ材を加工する様子を視察。日本では機械で行う作業を、農村部から出稼ぎに来た作業員らが担っていた。

北信州森林組合の堀沢正彦・業務課長代理は「日本では捨てられている曲がった丸太も、手作業で細かい板にして組み合わせ、全て集成材として製品化している」と驚く。こうした集成材は、マンションなど集合住宅の内装工事に使われており、木材製品市場で市民らに売られていた。

報告書はA4判、7ページ。堀沢課長代理は「中国への輸出は未利用材を減らすためにも必要」とする。来年も今年と同様に5回の輸出を予定しているという。

上海市近郊の木材専門の太倉港。北信地方から出荷された丸太が確認できた（北信州森林組合提供）

機械が少なく、人力が大きな役割を担っている上海市の製材所（北信州森林組合提供）

AC長野 食の応援

スタジアムメニュー発表

篠ノ井の団体

長野市篠ノ井地区のまちづくり団体「篠ノ井の応援団」がサポーターらの協力を得て考案。AC長野のチームカラーにちなみ、生麺製造販売の酒井製麺（篠ノ井布施高田）が開発したパプリカの色素を使ったオレンジ色の麺「橙麺（とうめん）」や皮「橙皮（とうひ）」を使っている。10月スタジアム販売用メニュー「信州しののい橙．conボール」は、地元飲食店が共同開発した。かりかりに揚げた橙麺と信州産のエノキタケをジューシーな肉団子に載せ、ソースとマヨネーズを掛けての販売を目指す。

お披露目会にはサポーターら約50人が参加し、橙．conボールを試食した。土橋宏由樹アンバサダーは「肉が詰まった感じがおいしい。お菓子感覚で子ども受けもいい」

ッカーJ3リーグのAC長野パルセイロを応援する新しい

一茶の命日に紙芝居口演

19日 長野・長沼の住民

小林一茶の生涯を描いた紙芝居の口演会に向け、練習に励む長沼絵伝絵解き研究会の女性たち

長野市長沼地区の住民8人でつくる長沼絵伝研究会が、19日にホール（長沼公民館）で信濃町出身の江戸期の小林一茶（1763～1827年）の生涯を描く「まんが絵伝『一茶』」の口演会に向けて練習している。

19日は一茶の命日。同区に弟子が多くいた一茶の人となりを通じて知ってもらうくりに生かす考えで、年度に実施した70年記念事業として、7月に作った。3月14日、日本酒や雪、桜にした企画を実

新幹線北陸へ 3・14開業

上越妙高駅で 3月イベント

5市関係者ら会場視察

新潟県の上越、妙高、佐渡、柏崎、十日町の5市などでつくる新幹線まちづくり推進上越広域連携会議（事務局・上越市）の開業イベント・PR部会は14日、来年3月14日の